



発行所

山形新聞社

〒990-8550
山形市旅籠町2-5-12
総合案内 023(622)5271
読者センター 023(622)5666
(平日9時30分～17時30分)

(c)山形新聞社2021

2021年
11月30日
〈火曜日〉

電子
速報版



特別号外

■やまがた
ニュースオンライン
yamagata-np.jp

■携帯・スマホ
yamagata-np.jp
/mobile/



詳しくは山形新聞を
ご覧ください。

オミクロン株 日本初確認

新型コロナウイルスの新たな変異株「オミクロン株」の感染者が日本で初めて確認されたことが30日、政府関係者への取材で分かった。感染が分かったのはアフリカ南部のナミビアから28日に成田空港に到着した30代男性。入国時の検査でウイルス陽性と判定され、詳しく解析した結果、オミクロン株感染が判明した。

ナミビアからの30代男性

オミクロン株は、感染力が増したり、ワクチンが効きにくくなったりしている可能性が指摘されている。世界保健機関（WHO）が26日に最も警戒レベルが高い「懸念される変異株（VOC）」に指

定。各国でアフリカ南部からの渡航を制限する動きが拡大するなど、警戒態勢に入っている。国立感染症研究所などによると、オミクロン株には、人の細胞に侵入して感染する際の足掛かりとなる突起

状の「スパイクタンパク質」に約30の変異がある。世界で猛威を振るうインド由来のデルタ株と比べても際立って多く、デルタ株や南アフリカで最初に見つかったベータ株とは異なる系統とみられる。

オミクロン株を巡っては、24日に南アがWHOに新たな変異株として初めて報告。隣国のボツワナや、香港、イスラエル、欧州などでも見つかり、急速に感染確認地域が広がっている。

【オミクロン株】
南アフリカが11月に報告した新型コロナウイルスの新たな変異株。新型コロナウイルスは2019年に中国・武漢で

初めて感染者が確認された後、遺伝情報が部分的に変わる変異株が見つかっており、感染しやすさや症状の重さが異なる場合がある。英国由来のアルファ株や、インドで最初に見つかったデルタ株は日本や世界で大流行の波を起こした。オミクロン株は変異した部分が多く、WHOは最も警戒度の高い「懸念される変異株（VOC）」に分類する。

購読・試読のお申し込みは

フリーダイヤル 0120-81-8040